地域と大学をつなぐ防災情報誌

いっせーのせ

VOL. 11

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

漆山自治会が作った 弁天こども園

まちの気になる人、お店、場所・・・

この人に会いたい！

高齢者と楽しいひととき

弁天こども園は、1972年に自治会によって設立され、今年53年目を迎えます。設立当時は、農家の子どもたちが多く、地域との密な関係が築かれました。園児たちは、芋掘り体験や近隣の老人ホームのクリスマス会などで地域と交流しています。地域の農家から、野菜のおすそ分けがあるそうです。夏まつりや運動会などの行事は地域の方にも見守っていただき、温かな支援の中ですくすくと育っています。

子どもたちの普段の様子は弁天こども園HPの「べんてんっこブログ」から確認できますので、ぜひチェックしてみてください。

取材　宮崎 瑠希也　（人文学部3年）

学生ボランティアとの交流

弁天こども園ＨＰ

http://benten.ed.jp/

神戸学院生が気になる＜まちの人＞を取材してご紹介します。こんな人がいるよ、あのお店を紹介して！
前から気になっていたんだけど不思議な場所があるんだ・・・　情報をお寄せください！

レポート　小学生と大学生が学

「小学生と大学生でLet's防災キャンプ」が８月12日、神戸学院大学有瀬キャンパスで行われました。長坂小学校生21人（長坂ジュニアチーム）、神戸学院大学生30人が参加しました。目的は小学生に防災についての知識をつけてもらうことです。学生は企画ごとに担当に分かれ、子どもたちに楽しく学んでもらえるように準備を行いました。当日はどの活動も、大学生と小学生が協力し合いながら取り組めていました。担当した学生からのレポートを紹介いたします。

【プログラム概要】

日時　2023年8月12日
会場　神戸学院大学有瀬キャンパス
　　マナビーホール（大学会館4階）

<スケジュール>

10:00 開会、自己紹介
10:25 工作して学ぼうワークショップ
11:30 非常食体験＆防災クイズ
14:00 ピクトグラムワークショップ
15:00 閉会

工作ワークショップ

工作ワークショップは、「いざという時に困らないようにすること」を目的とし、「災害が起こった時に自分は何をすべきなのか」を子どもたちと一緒に考えました。具体的には、災害時に必要な水を確保するために「水のろ過」と、汚れた皿を水で洗わなくていいように「新聞紙でお皿作り」をしました。

子どもたちに自分で体験してもらうことで、災害時の水の大切さについてより深く理解してもらうことができました。この活動を通して、自分も日頃から水の節約を意識的に行っていこうと改めて感じました。

溝脇 蒼生（人文学部 2年）

非常食体験&防災クイズ

実際に非常食を食べてもらい、どのような味がするのかを体験してもらいました。非常食に関して調べていくうちに、私たち自身が、今まで考えることのなかった重要性について改めて実感することができました。

そして、私たちが学んだ防災の知識を伝えるためにクイズを作成しました。気合いMAXで臨みましたが、子どもたちはスラスラと回答し、私たちの想像以上に知識を持っていることに驚かされました。子どもたちが日ごろから防災に真摯に向き合っている証拠だと思いました。非常食体験と防災クイズは、子どもたちから笑顔が溢れ、楽しく防災を体験学習することができ、とても良い経験となりました。

竹中 翔輝 （法学部　1年）

ピクトグラム

防災に関する「ピクトグラム」ワークショップを実施しました。このワークショップを通して、「伝えることの難しさ」「チームとして団結することの大切さ」を感じました。

びあう「防災キャンプ」を開催！

準備段階では、「ピクトグラム」を使用していかに防災を伝えるか、その表現方法が思っていた以上に難しく、担当した学生の話し合いが行き詰まる場面が多々ありました。しかし、たくさんの人にアドバイスをいただきながら、改善策を考えていきました。話し合いを積み重ね、小学生にとって印象に残りやすいワークショップに仕上がったと実感しました。ここで得た達成感を糧に、次回も頑張ります。

鈴木 源騎（法学部　2年）

【避難所のピクトグラム】

東北に行ってきました！

報告　**松本 華歩　栄養学部2年**

2011年3月11日の東日本大震災発災時、私は小学生でした。神戸学院大学の先輩が発災直後から宮城県被災地で活動をし、バトンを引き継ぎながら仮設住宅が解消される2017年まで継続された歴史があります。発災から12年が経過して、現役生の私たちにできることは、東北の「今」を知ること、それを伝えることだと思っています。

今回は「東北の復興を学ぶスタディツアー」として、宮城県と福島県を訪問しました。現地では、津波による教訓が多くの場所で生かされていると感じました。海岸には防波堤が整備され、建物も耐震や災害の備えがなされていました。そこから私たちは震災の復興は進んでいると思いました。

しかし、震災遺構を見学したり、語り部さんのお話を聞いたりする中で、表面的には復興していると見えていても、「心」の復興はまだできていないと感じました。さらに地域間のコミュニティにも変化がありました。以前はとても親しい近所付き合いであったのに対し、避難所→仮設住宅→新しい復興の街づくりへと進むにつれ、旧来の親しさが分断され、人間関係が希薄になった方が少なくないことを知りました。

私たちはそのような現状や感じたことをこれからより多くの方に発信し、復興支援や防災に繋げたいと強く感じました。

慰霊碑の高さまで津波がきました

＊本稿は神戸市消防局広報紙（Web）8月号『防コミの歩き方』に掲載された記事を転載しております。

世代をこえて輪が広がった総合防災訓練

○長坂地域の紹介

長坂地域は西区伊川谷町の一角に位置し、野菜や花づくりの盛んなところですが、近年は大規模なマンションが建ちならぶ住宅地として発展しています。また、小学校から大学まで近接する文教地区でもあります。

長坂防コミ（長坂校区防災福祉コミュニティ）は、発足当初より長坂ふれあいのまちづくり協議会等と融合しながら、防災訓練など活動を続けています。

○地域・大学連携で防災情報誌を発行

神戸学院大学ボランティア活動支援室と長坂地域住民との連携した防災活動が続いており、その中で防災情報紙『いっせーのせ』を刊行、本号で11号を数えています。昨年は両者の意見交換をもとに、地域の危険個所特定や災害時の避難ルートの提案など、学生の目から見た「防災マップ」を作成しています。

長坂防災ジュニアチームでは、現在２３名の小学校児童が参加し、毎月防災学習や訓練など楽しく活発な活動を行っています。

○大人も子どもも楽しく学び交流がすすむ

今年2月、4年ぶりに開催した総合防災訓練は、小中学校生徒多数が参加したのを始め、総勢240人が訓練に参加して盛況でした。防コミスタッフとともに大学生20名が参加、学生ブースを出展したほか、避難、救助訓練などでリーダーとして活躍、地域住民に喜ばれ、お互いに交流も進みました。

炊出し訓練では、ボーイスカウトと学生のみなさんが力を合わせて豚汁を作り参加者に提供「美味しかった」「楽しかった」と好評で「来年も必ず参加しようね」などの声が聞かれました。

○地域の特性・多様性を生かして防災対応を取り組む

大規模な自然災害の発生時、消防や行政の対応力だけでは限界があることは明白です。

「自分の命は自身で守る」「自分で守れない命は助け合って守る」ことが必要と考えます。長坂防コミは、地域の特性・多様性を生かし、必要な防災訓練や市民リーダー研修等を通じて、地域で顔の見える関係醸成など、これからも活動を進めていきます。

長坂校区防災福祉コミュニティ会長　川尻 幹雄

【総合防災訓練の様子】

学生が出す防災クイズに答える子ども達

VR体験

車いすの使い方を地域の方に教えてもらう

放水体験

防災情報誌『いっせーのせ』VOL.11
発　行　2023年11月1日
発行者　長坂ふれあいのまちづくり協議会
神戸学院大学ボランティア活動支援室
連絡先　〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
神戸学院大学 ボランティア活動支援室
ＴＥＬ　078-974-1551(大学代表)
E-mail　kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp